

1 児童の体力・運動能力等に係る現状

新体力テストでは、50m走が2年生男子を除き、全学年で全国平均を大きく下回る結果になった。学年それぞれで課題があるが、男子は全学年で「長座体前屈」、「上体起こし」、「20mシャトルラン」、「立ち幅跳び」、女子は「長座地前屈」で全国平均を大きく上回るもしくは全国平均並みの記録だった。
令和7年度後期児童アンケートでは、「毎日、朝ごはんを食べていますか」の質問に「毎日食べている」と答えた児童は1年生で88.6%、2年生で83.9%、3年生で77.1%、4年生で90.0%、5年生で86.7%、6年生で81.5%だった。

2 児童の体力・運動能力等の現状から分析した課題

新体力テストの結果から、全校的に50m走およびソフトボール投げで課題が見られた。特に50m走は全学年で全国平均を下回っている。この結果から本校の課題は走力にあると考えられる。

昨年度の児童アンケートでは、運動が好きかの質問に「とても好き」「まあまあ好き」と答えた児童が90%、体育の授業は楽しいかの質問に「とても楽しい」「まあまあ楽しい」と答えた児童が90%を超えていた。どちらも90%を超えており、運動に対する意欲、体育への参加意欲は高いと考えられる。したがって、今後は児童の運動量確保のため、更なる授業改善や休み時間の運動意欲を高める手立てが必要と考えられる。また、走力向上のために地面の反発を感じながら走ったりできるような環境を設定し、日常的な動きづくりの工夫が課題である。

3 学年ごとの目標（数値目標）

<体力・運動能力>

学年	目 標
1年	・「50m走」の結果を全学年で、全国平均以上にする。
2年	
3年	
4年	
5年	
6年	

<生活習慣・運動習慣>

学年	目 標
1年	・毎日、朝ごはんを食べている児童の割合を90%以上にする。
2年	
3年	
4年	
5年	
6年	

4 児童の体力・運動能力等に応じた具体的な取組

(1) 体育授業内での取組

- ①「小樽授業づくりの5つのSTEP!!」を取り入れた体育授業の充実
- ②新体力テストの課題（走の運動）を意識した準備運動等を取り入れる工夫
- ③準備運動としての手宮中央体操の取組
- ④90秒間両足時給跳び（なわとび）の取組
- ⑤体育専科教員との連携

(2) 体育授業以外の年間を通じた取組

- ①児童が自発的に体を動かしたくなる場（ケンパ、垂直跳び、投擲）の設定
- ②体育館やグラウンドでの遊びの奨励（各学級へのグラウンド遊び用ボールの配布、大谷グローブの活用）
- ③担任、養護教諭と連携した運動と食事に関する指導の実施

(3) 保護者や地域と連携した取組

- ①学校外での運動習慣定着に向けた啓発
- ②学校だよりや学級通信、保健だよりを活用した運動や朝ごはん

1校1実践「体育授業における準備運動の工夫」

の奨励

5 実施計画

年月日	計 画 内 容
R 8年	
4月	・グラウンドの整備と鉄棒補助器具の設置及び各学級へボールの配布
5月	・春の遠足
6月	・運動会
	○新体力テスト実施
	○全国体力・運動能力、運動習慣等調査実施
	・保護者への新体力テスト結果周知
7月	・水泳学習
	・前期児童アンケートの実施
	・
8月	○新体力テスト結果分析
	○体力向上改善プランの評価・改善
	・保護者への新体力テスト結果分析周知
9月	・秋の遠足
	・前期どさんこ元気アップチャレンジ記録集計と報告
10月	・新体力テスト課題種目再測定
11月	・児童アンケートの実施
12月	
R 9年	
1月	・スキー学習
	○保護者への調査結果の説明
	○体力向上改善プランの評価・改善
2月	・後期どさんこ元気アップチャレンジ記録集計と報告
3月	○新体力向上改善プランの作成

6 評価方法

(1) 体育授業内での取組

- ①学校評価、児童アンケートの結果
- ②全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果
- ③新体力テストの結果

(2) 体育授業以外の年間を通じた取組

- ①全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果
- ②学校評価、児童アンケートの結果

(3) 保護者や地域と連携した取組

- ①学校評価・児童アンケートの結果
- ②保護者アンケートの結果